

まなびの森



廿日市市立吉和小・中学校 校長通信

【第6号】R4.10.28

校長 戸崎志乃婦

タブレットは考えるためのツール

昨年度から今年度にかけてずいぶんタブレットの活用が進みました。タブレットタイムでキーボード入力や手書き入力を練習したり、算数の問題を解いたり漢字の練習をすることもあります。

調べ学習の他にも、タブレット内のjamboard(ジャムボード)という機能を使って話し合いをすることがよくあります。各自で付箋に自分の意見を記入し、電子黒板上に並べ可視化していきます。クラス全員がどのようなことを考えているかがわかり、同じ意見をまとめたり、違った意見から対話が生まれたり、学び合ったりします。電子黒板を見ながら、タブレットを囲みながら、自分達で話し合いを進める姿も増えています。



全国の小中学生に一人一台の端末が準備されました。初めはまず慣れることからでしたが、使うことが増えるにつれ、「自ら学ぶ」「対話しながら学ぶ」「より深く学ぶ」ためのツールとしての役割を果たそうとしています。

10月13日には、茨城県の内野山小学校とのオンライン交流会、

10月14日には宮島小学校との対面の交流会がありました。

オンラインでは、普段では絶対に会えないような県外や国外の子供たちと意見交流ができますし、対面であれば、五感を駆使して、その人の声、身振り手振り、細かい表情などから、関わりを深めることができます。両方のよさを手に入れたわけですから、今後はTPOに応じてよりよい方法を児童生徒自身に選択させていきます。

「…(中略) ICT の環境整備は手段であり目的ではないということです。子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していく必要があります。…」

(文部科学大臣メッセージ 令和元年12月19日)

新しい時代を生き抜く力を育成するために、現在の学校はこのような使命を担っていることを心にとめ、本校でも毎日の授業を組み立て、指導を進めていきます。

